TOKYO ART RESEARCH LAB WEBSITE CONCEPT BOOK

ウェブサイト コンセプトブック

つかい方
と、
つくり方

HOW TO USE

INDEX

ABOUT ---------- 02

HOW TO USE

01「プロジェクト」---------- 04

02「資料室」---------- 06

03「ひとびと」---------- 08

HOW TO ENJOY

01「キーワード」から探す ------ 10

02「レポート」を読む ---------- 12

03「実践」を辿る ---------- 14

ABOUT

HOW TO USE

HOW TO ENJOY

PROCESS

ACCESSIBILITY

FUTURE

INDEX

ウェブサイトの「スタート地点」に立つ ---- 02

届けたい「みんな」とは誰なのか ---------- 06

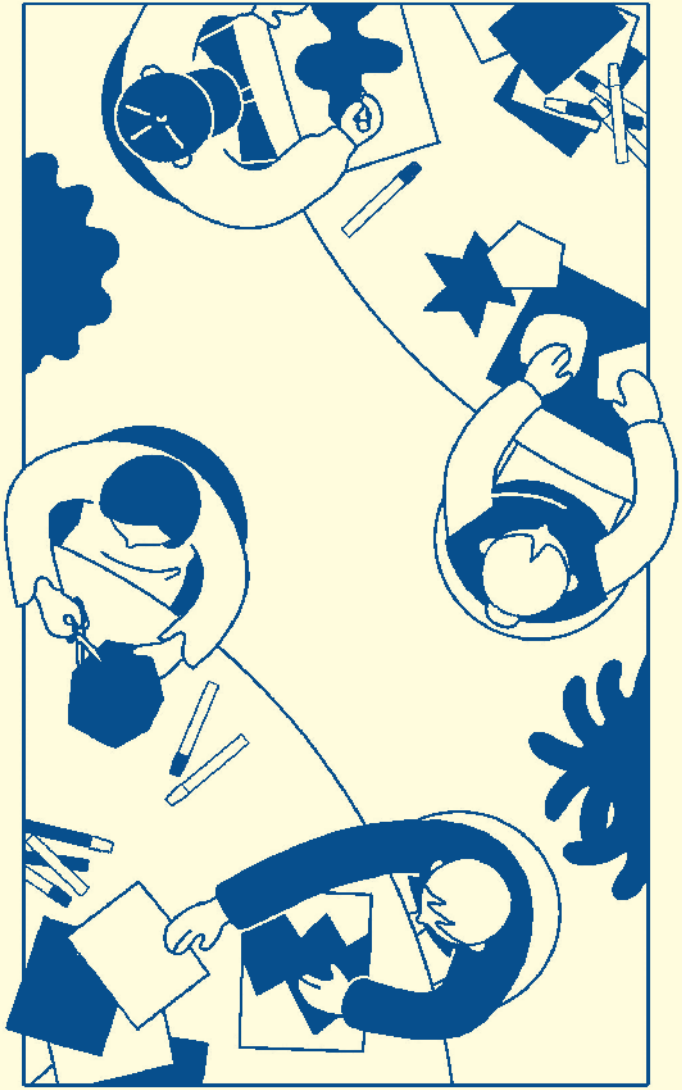
公開後も「未来」について考え続ける ---- 10

おわりに ---------- 14

TARLウェブサイトについて

Tokyo Art Research Lab（TARL）は、アートプロジェクトをはじめとする文化事業の担い手のためのプラットフォームです。アートや文化にかかわる領域で活動する人々の環境整備や基盤構築を目指し、運営しています。

ウェブサイトでは、変化を続ける社会に向き合う学びの場としての「プロジェクト」、企画運営や研究に活用できる「資料室」、企画や事業をともにつくってきた「ひとびと」の情報を掲載しています。
このコンセプトブックでは、さまざまなコンテンツを多くの方に活用していただくために、TARLウェブサイトのつかい方や楽しみ方、さらにはウェブサイトの制作・運用にまつわるコラムを紹介しています。



HOW TO USE

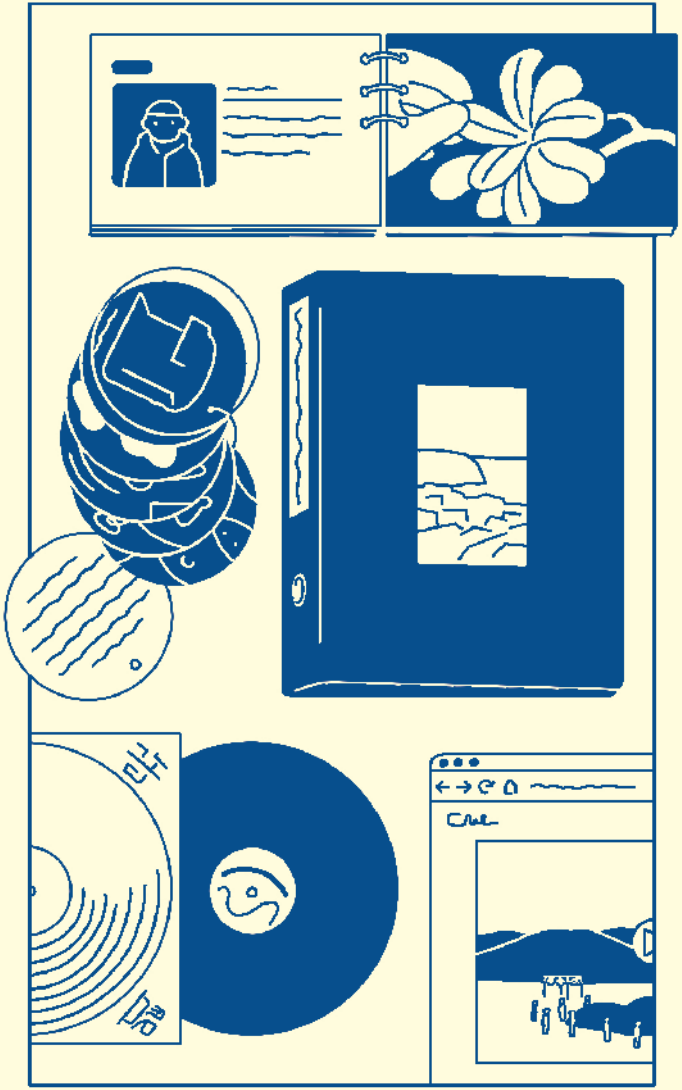
01

プロジェクト↗

アートや文化の視点から社会に応答する

TARLでは日々変化する社会状況に向き合うために、さまざまな社会課題や問題意識にアプローチする学びの場をつくっています。
トークイベントやワークショップをはじめ、映像をつかった教材制作、ひとつのトピックを探求する研究開発といった「プロジェクト」を実施しています。
アートプロジェクトの進め方はもちろん、手話やろう文化に触れる、災害・災間について考える、外国ルーツの若者の現在を考えるなど、そのテーマは多岐にわたります。実施後のレポートやドキュメントからも、わたしたちの暮らす社会に向けた「新たな発想」が見つかるかもしれません。

プロジェクトページを見る



HOW TO USE

02

体験やノウハウの蓄積を社会にひらく

「資料室」のページでは、アートプロジェクトや文化事業にまつわる企画運営や研究、記録などのために制作した資料を公開しています。
書籍、映像、PDFなど、さまざまな形式のデータを閲覧・ダウンロードできます。また「アートプロジェクトをもっと知りたい」「アーカイブについて知りたい」といった、それぞれの関心に合った資料の探し方も紹介しています。
各ページには近しいテーマの関連資料が紐づいているので、併せて深掘りしてみるのもおすすめです。

資料室
ページを見る

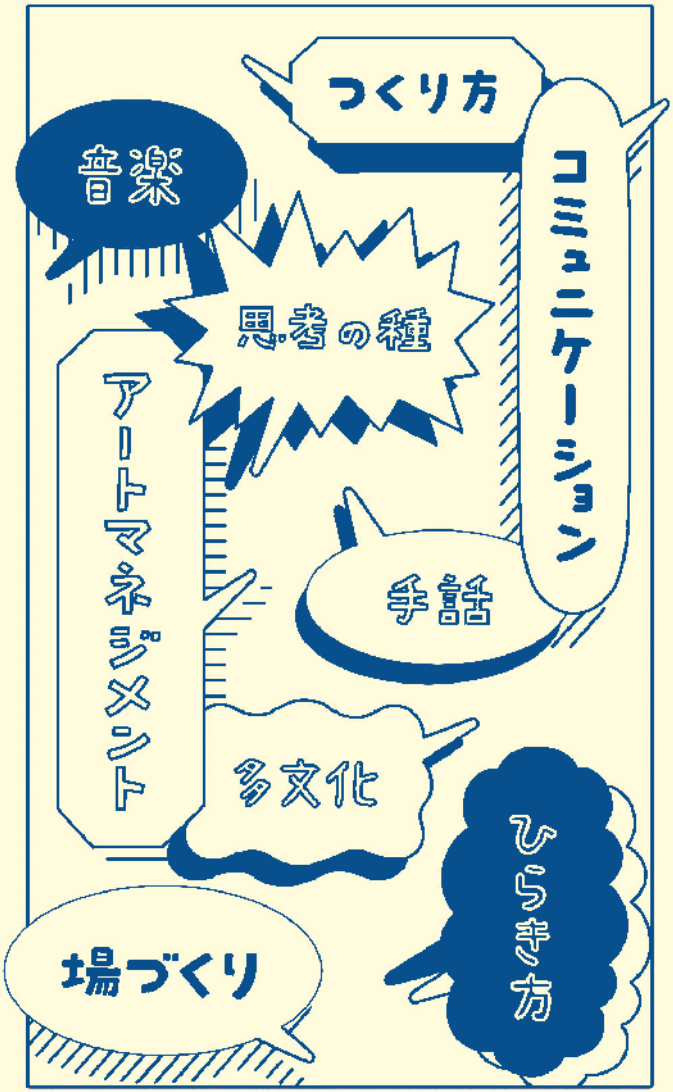
HOW TO USE

03

異なる専門性とかかわりながら企画をつくる

「ひとびと」のページは、これまでにプロジェクトの企画や実施、資料の制作に携わった方々のプロフィールの一覧です。
アーティスト、デザイナー、ディレクター、マネージャー、映画監督、研究者、編集者、ライター……など、その肩書きは実にさまざまです。
異なる職能が集まる制作プロセスからは、そのプロジェクトや資料づくりにおいて大切にしている視点が見えてきます。多くの専門性を見渡しながら、企画をよりよくするための体制づくりを想像してみてください。

ひとびと
ページを見る



HOW TO ENJOY

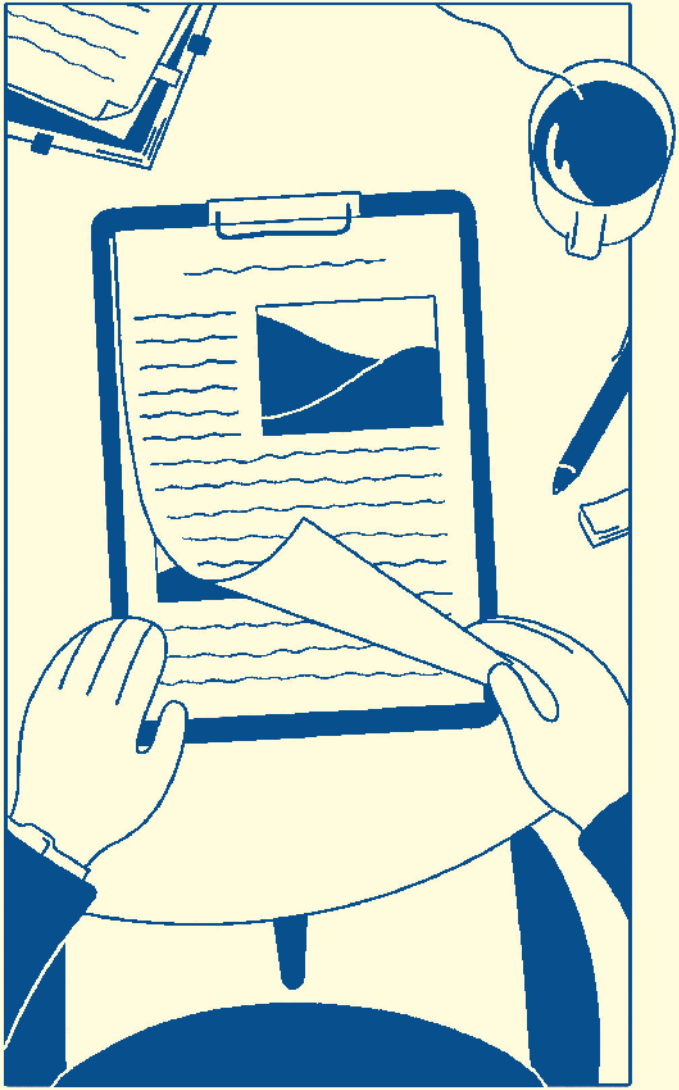
01

「キーワード」から探す↗

言葉を手がかりにして時代を紐解く

プロジェクトや資料は、アートマネジメントの知見や時代に応答するテーマなどの「キーワード」から検索することができます。
アートマネジメント、拠点運営、評価・検証、コミュニケーション、アーカイブ、公共、災害・災間、手話、音楽、思考の種……など、一つひとつのキーワードが時代を紐解く手がかりです。ぜひ、気になる言葉を見つけてウェブサイトをめぐってみてください。

キーワードページを見る



HOW TO ENJOY

02

「レポート」を読む↗

日々の記録や発見を通じて課題に向き合う

「プロジェクト」ページには、関連資料のほか、企画本番や準備の様子をまとめた「レポート」が紐づいています。
現場で何が起き、参加者がどのような体験をしたのか、本番までにどのような試行錯誤があったのか、執筆者が捉えた瞬間が写真とともに綴られています。実践を通じて残された日々の記録や発見のなかに、企画づくりに向き合うヒントがあるはずです。

レポート
ページを見る

HOW TO ENJOY

03

アートや文化への眼差しが
わたしたちの暮らしに根づくために

TARLウェブサイトを運営している「東京アートポイント計画」が、東京都・アーツカウンシル東京・NPOの３者でパートナーシップを組み実施しているアートプロジェクトを紹介しています。
活動を持続的なものにするために、事務局や企画チーム、アーティスト、地域にかかわる人々が話し合いながら課題を考え、実践を重ねて振り返る。その循環のなかで企画の「関わりしろ」をさらに広げています。それぞれのアートプロジェクトが見据える先を、写真とともに辿ってみてください。

実践（共催事業）のページを見る

ウェブサイトの「スタート地点」に立つ

ウェブサイト制作の道のりには、決めなければならないことが山積みだ。なぜウェブサイトをつくるのか、どんなコンセプトで進めるのか、用意できるコンテンツは何か。もちろん、予算やスケジュールなど、あらかじめ条件が決まっていることもある。

ＴＡＲＬウェブサイトの場合には、前身となるウェブサイトのコンテンツをつかい、約一年半にわたるリニューアルプロジェクトに取り組んだ。そもそも事業としてのＴＡＲＬがはじまったのは二〇一〇年のこと。各プログラムの情報発信に向けて二〇二二年にウェブサイトを公開して以来、二〇

一七年に一度目のリニューアルを実施している。その後も事業の枠組みを変えながら、多種多様なコンテンツを発信し続けた。そして二〇二二年の冬、このウェブサイトに蓄積した膨大な情報を、さまざまな地域や分野で活動する人にも役立ててほしいという思いから、リニューアルに向けた企画づくりがはじまる。

目指したのは「ユーザーが直感的に、長くつかい続けることができる」「さまざまな人の立場からアクセシビリティを考える」「多様なコンテンツを整理し、活用できるようにアーカイブする」こと。二〇二二年の冬にリニューアルしたウェブサイトを公開し、二〇二三年の夏にかけて「東京アー

トポイント計画」が実践するアートプロジェクトを紹介するウェブサイトとの統合に至った。

ウェブサイト制作は「スタート地点」の設計が肝心だ。さまざまな条件や目標を踏まえて、どんなチームが必要かを考え、しっかり時間と手間をかける余裕を見込んでおけることが理想である。TARLウェブサイトでは企画を固めきる一歩手前で、ウェブディレクター、編集者、デザイナー、TARLの企画担当者による定例会議をはじめた。情報発信の役割はSNSに委ね、既存の文章やページ構成を練り直し、積み木をひとつずつ重ねるように行程を進めた。

・・・

どんなに些細なことでも気になることはチームで共有して、それぞれの考えを言葉にしてみる。すると、ふいに「組織の課題」が見つかり戸惑うことや、忘れかけていた「価値や魅力」を発見することがある。自分の経験だけで決めるのではない。さまざまな専門性と出会いながらつくることによって、制作プロセスそのものが「事業の輪郭」を確かめる道のりへと変わる。

ウェブサイト制作の道のりを共有し、チームで取り組むための資料
『アートプロジェクトのためのウェブサイト制作コ・クリエイションの手引き』

届けたい「みんな」とは誰なのか

企画を考えていると、「みんな」に情報を届ける方法について議論になることがある。そうしたときには届けたい相手を「みんな」と括らずに、ターゲットとなる人物像——年齢や職業、習慣、趣味嗜好など——をチームで共有し、その体験を具体的に想像することが大切だ。はじめは慣れないこともあったが、自分たちの「届けたい」という思いをひとりよがりのままにせず、コンテンツまでの導線を客観的に捉える指針となった。

さらにウェブサイトにおいては、ユーザー自身が情報の受け取り方を選択できるよう「アクセシビリティ」について

考える必要もある。例えば、ウェブアクセシビリティの基準として「JIS X 8341-3:2016」という産業規格がある。インターネットの世界において、そうした規格を満たしながらウェブサイトの水準を高めることは、ユーザーの障害の有無によらないコミュニケーションを支える手立ての一つだ。

一方で、TARLウェブサイトでは、そうした規格への厳密な準拠から考えるのではなく、障害のある当事者の方を交えたユーザーレビューによって「ウェブアクセシビリティの向上」に取り組んでいる。レビューを実施したのは、デザインの方向性が見えてきた段階と、各ページが試験的に挙動するようになった段階である。そこでは「色が鮮やかで眩し

く感じる」「ー（ダッシュ）とー（伸ばし棒）が混在して読み上げがうまくいかない」「画面が自動で切り替わると驚いてしまう」などのコメントが挙がり、それらを手がかりにしてユーザーが安心できる環境づくりを目指した。

そして現在、アーツカウンシル東京をはじめ、公益財団法人東京都歴史文化財団が所管する文化施設のウェブサイトについても、さらなるアクセシビリティの向上へと動いている。加えて、実際に文化施設やイベントに訪れる人々を想定したアクセシビリティの検証・整備もはじまった。

・・・

「みんな」という言葉を一人ひとりの存在に置き換えて、わたしたちの隣りにある「さまざまな生活」に意識を向ける。感覚の異なりをすべて理解するのではなく、その存在を見逃さない心構えが大切なのだと思う。TARLウェブサイトにはまだまだ改善点が残されているが、今後も少しずつ更新を続けながら「届ける・受け取る」ことに丁寧に向き合い続けていきたい。

ウェブアクセシビリティやユーザーの検討について、制作チームが語る
「Tokyo Art Research Lab」ウェブサイト制作 振り返り座談会（後編）

公開後も「未来」について考え続ける

ウェブサイトの制作は「家の建築」に例えられることがある。どんな場所に、誰と、いつまでに建てるのか、そうしたスタート地点の設計や体制づくりについてここまで触れてきた。そして、さまざまな来訪者——ウェブサイトのユーザー——を迎え入れるためには、家の住人——ウェブサイトの運用担当者——がいることを忘れてはならない。

家が建ったあとにも部屋の模様替えをするように、ウェブサイトでもページ構成や言葉づかいをユーザーの実態や時勢に合わせて更新・改修することがある。つまり「家」も「ウェブサイト」も、ひらいてからが本当のはじまりともいえるのだ。

無事に公開できたことに安心して管理がおろそかになり、コンテンツのつくり方がバラバラになった経験のある方もいるのではないだろうか。文章の温度感やページの導線があちらこちらで変わってしまうと、ユーザーにとっても負担になってしまう。ウェブサイトの環境を保つためには、家の住人が快適に暮らせるように、なるべく悩まず運用できる仕組みが必要だ。例えば「コンテンツの管理画面を複雑にしない」「文章づくりのマニュアルを用意する」ことが挙げられる。また、サーバーやドメイン、保守管理、アクセシビリティ向上の検討など、毎年の維持・更新費用も想定しておくと、いざというときにも慌てず対応できる。

特に「会社」や「組織」では担当者が変わることもある。ウェブサイトの軸となる「設計思想」を他の人でも説明できるように、制作プロセスを伝える・残す工夫も必要だ。TARLウェブサイトの場合には、制作チームによる座談会や、ウェブサイト制作にまつわる手引きを併せて公開した。内部においては、コンテンツづくりを担当者以外でも分担したり、打ち合わせ資料一式を整理して保管したりしている。

・・・

はじめに考えた耐用年数にこだわるのではなく、自分自身もいちユーザーとしてウェブサイトを活用して、ちょっとした「つかいにくい」あるいは「ここが良いね」に素直になってみる。未来は読みきれないからこそ、気づいたことをそのままにせず、適切に更新することも大切にしたい。ユーザーに情報を届けるためには、ウェブサイトではなくSNSの運用をメインに切り替える判断さえあり得るかもしれない。不確かな時代において、そうした俯瞰的な心がけが「事業そのものの柔軟さ」を育むはずだ。

ウェブサイト運営のもやもやを、さまざまな立場から考える
オンライン座談会「誰かと一緒にウェブサイトをつくるために必要なことはなんだろう？」
(Part.5)

このコラムではＴＡＲＬの企画担当者の立場から、ウェブサイトのリニューアルを通じた気づきの一端をまとめている。

一人で机に向かって業務をこなしていると、刻々と変化する状況に揉まれて、いつの間にか企画を未来に「発展」させる余裕がなくなっていることがある。しかし、今回のウェブサイト制作に携わるなかで、あらためて成果や展望を自分の言葉やイメージに変えて、窮屈になっていた視界をひらく感覚に出会った。

ここで紹介したことは、他の分野や業種では決して目新しいことではないのかもしれない。それでも日々の議論はとても刺激的で、ここで取り組んだチームのつくり方や、届ける相手の想定、未来への眼差しは、さまざまな文化事業に通じる姿勢だと感じている。

現在地点を確かめるために、自分にはない感覚に出会いながら、慣れてしまった「当たり前」を問い直してみる。そうした時間をつくるささやかな設計が、企画の思考を未来に向ける力になるはずだ。

アーツカウンシル東京 プログラムオフィサー 櫻井駿介

Tokyo Art Research Lab
ウェブサイト コンセプトブック
つかい方と、つくり方
[二〇二三年度発行版]

企画 ---------- 櫻井駿介、小山内子（アーツカウンシル東京プロジェクトオフィサー）
デザイン ---------- 藤山大輔
イラスト ---------- 大澤萌乃
執筆 ---------- 櫻井駿介
編集アシスタント --- 村田晴菜［群像］
印刷 ---------- 株式会社ヤマシ
製本 ---------- 有限会社丸信紙工

発行日 ---------- 二〇二四（令和六）年二月十五日
発行 ---------- 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
〒一〇一-〇〇二二 東京都千代田区九段北四丁目一-一八
九段アーバンプレイス 五階

ISBN 978-4-909894-48-9 C0070

Tokyo Art Research Lab ウェブサイトは、東京アートポイント計画の一環として運営しています。

東京アートポイント計画は、東京都・アーツカウンシル東京・NPOが協働し、社会に新たな価値観や、人々が自ら創造的な活動を生み出すための「アートポイント（拠点／場）」をつくる事業です。当たり前を問い直す、課題を見つける、異なる分野をつなぐ――そうしたアートの特性をいかしたアートプロジェクトを通じて、わたしたちの暮らすまちに、個人が豊かに生きるためのよりよい関係や仕組み、コミュニティが育まれることを目指しています。

営利、非営利を問わず、当資料のコンテンツを許可なく複製、転用、販売など二次利用することを禁じます。
© Arts Council Tokyo

Tokyo Art Research Lab ウェブサイトは、
東京アートポイント計画の一環として運営しています。

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
［2023年度発行版］

ARTS COUNCIL TOKYO

tarl TOKYO ART RESEARCH LAB

Tokyo Art Research Lab
ウェブサイト［tarl.jp］